

# グッバイ・クリストファー・ロビン

著: アン・スウェイト

---

今や世界中の誰もが知っている「くまのプーさん」。ディズニーアニメーションで知っている方が多いと思いますが、「くまのプーさん」は、実はイギリス文学であることを知っていますか？この本は、「くまのプーさん」が誕生するに至った作者の背景や思い、また誕生してからの葛藤が描かれている伝記です。明るく、愉快的印象のある「くまのプーさん」ですが、その背景には、戦争や作者の複雑な思いが込められています。この本を読むことで、「くまのプーさん」をより楽しく、そして時に哲学的に見ることができ、おすすめの一冊です。

【国際4\_ともか】

# モラルの起源ー実験社会科学からの問いー

著：亀田達也

---

私たちヒトの群れでの生活や心の動きというものを、あらゆる分野の専門領域から分析、実験していく。ヒト以外の動物の社会性を問う実験は、切り口が斬新であるが、これもヒトの社会性を紐解いていくには欠かせない。私たち人間が、対立なく平和な社会を作っていくには、どうしたらよいのだろうか。そのヒントが、いたるところに散りばめられていることに気づかされる本である。

【家政3\_ろろ】

# 君の膵臓をたべたい

著：住野よる

---

この本は主人公である「僕」が山内咲良の日記帳を病院のロビーで拾い、彼女の秘密を知ってしまい接点を持つようになり、心を通わせていく物語ですが…結果がまさかの展開となります。読み終わった後「君の膵臓が食べたい」というタイトルがより印象的なものとなり「生き方」について考えさせられる本です。

【文芸3\_おーたん】

# 日本のヤバい女の子

著:はらだ有彩

---

日本の神話や古典、民話に登場する女性の心情に寄り添いながら読み解いていくイラストエッセイ。身近なお話も「そんな読み方あるんだ！」という新発見があり楽しく読めます。どの章・お話からでもサクッと空いた時間に読めるのも魅力です。

【文芸3\_なえ】

# 九十歳。何がめでたい

著:佐藤愛子

---

テンポがよくとても読みやすいエッセイ。  
様々なエピソードが語られ、色んなことに  
怒ったり口が悪かったりして笑える内容にも  
なっているが、現代社会について私達とは  
違った目線で見られるので考えさせられると  
ころもある作品になっている。

【文芸3\_はしもと】

# アイデンティティが人を殺す

著:アミン・マアルーフ

---

私はアイデンティティは人を殺す、という本を選んだ。著者はレバノンで生まれでアラビア語を母語とするが、キリスト教徒のためフランスに長く在住しており、2国両方にそれぞれ関わりがある。そのため安易に自らのルーツやアイデンティティを一言で語れないことによる葛藤について語っている。本書を通じて自分は何者なのか、について考える際に無理に国籍や宗教といったもののグループに帰属することもないということを知ることができる。わざわざ帰属を決めて自分を型に当てはめる必要なんてないのである。BLM運動やトルコのアヤソフィアのモスク問題を始めとした争いや問題に目を向ける時、本書を読むとそれらの問題は皆、アイデンティティと関わりがあることに気がつかされる。社会に出る前に自分のアイデンティティを理解するために読んでおきたい一冊だと思う。

【国際3\_ありあ】

# 言葉にこだわるイギリス社会

著：ジョン・ハニー

---

日本にも方言という特徴があるけれど、そのことが就職に影響するということは少なく、方言を大事にしている人は多いと思います。しかし、イギリスでは話し言葉によって不利が生じてしまうため矯正することが多く、そのことを日本と比較してみると興味深いと感じました。イギリスの主要メディアであるBBCや王室、芸能界で使用される様々な言葉遣いを紹介しているのでどのような違いがあるのかを読んでほしいです。

【国際3\_つちこ】

# 有頂天家族

著：森見登美彦

---

ファンタジー小説が好きなので「有頂天家族」を選書しました。今回のブックトークに参加するまでこの作品がアニメ化されていることを知らなかったもので、今度機会があったら見てみたいと思いました。テンポよく読み進めることができ、また動物が主人公だからこそ重くなりすぎない内容でお気に入りの小説の一つになりました。

【家政2\_すい】

# 「怒り」がスーッと消える本

著：水島広子

---

「イライラ」「ムカムカ」することがありませんか？

この本は「怒り」を様々な点から解決していく本です。一段階ずつステップアップしていく構造になっているので、役に立つ方法を拾い読みしていくのもいいし、「怒り」を手放すことが難しいと考えている人はステップ1から順に読んでいくことをお勧めします。各ステップごとにまとめが書いてあるので、そこを読むだけでもいいと思います。

「怒り」を持っていることで自己嫌悪に陥ったり、友情や恋愛をダメになったことがあるということを経験したことはないでしょうか？「怒り」をコントロールすることでストレスを減らすだけでなく自由になる時間が増えたり、仕事や人間関係でも自身の力を発揮できると思います。挿絵もかわいいので是非読んでみてください。

【家政2\_メグ】

# いなくなれ、群青

著：河野裕

---

ある日突然階段島に連れてこられた主人公は、かつての同級生真辺と出会う。そこから出る条件は自分が失くしたものを見つけること。彼らはそれらを探していく中で、様々な人と出会い、葛藤し、成長していく。悲観的な主人公とは対照的に、真っ直ぐな性格の真辺が心に刺さる一冊となっています。皆さんもぜひ読んで見てください。

【文芸2\_あみ】

# 「先見力」の授業：AI時代を勝ち抜く頭の使い方

著：掛谷英紀

---

企画、マーケティング、研究開発.....今後AIに取って代わられない仕事には先を見通す力「先見力」が必要？著者は、先見力のある人とない人の書く文章にはどのような違いがあるのかという研究をしている方で、この本ではその研究事例が紹介されています。「この会社はよくCMをしているけれど、それに合理的な理由があるの？」「証券会社に勧められた株は買っても大丈夫？」過去のデータから学び、将来がどうなるか考える第一歩になる1冊です。

【文芸1\_ユキ】

# 体感する数学

著：竹内薫

---

「体感する数学」は身近な出来事を数学の定理や法則に当てはめてみるということが主な内容です。例えば乱数の説明では、乱数とは酔っ払いの千鳥足だと言われています。酔っ払いの千鳥足は次はどの方向にどっちの足でどれくらい踏み出すの方定まっておらず、踏み出し方にも法則はありません。そのため千鳥足の踏み出し方はランダムだと言うことができ、そのランダムこそ乱数だと説明されています。このように、身近な事象と数学を結びつけることで、数学に対して親近感を持つことができます。挿絵も可愛らしく説明も明快なため数学が苦手な人でもスラスラと読むことできる一冊です。

【文芸1\_ザッキー】

池上彰のニュースそうだったのか!!

いまさら聞けない「イスラム世界」のきほん

著:池上彰

---

番組でやっていた内容を本でも読めるようにしたものです。池上さんらしいわかりやすい解説で、イスラームの文化を知ったうえで現代の問題などを解説してくれているので、何も知らない方でも楽しく読めると思います。枚数も少ないので本が苦手な方にも挑戦しやすいと思います。

【ビジネス|\_はるな】

# ディズニーで学ぶ経済学

著：山澤成康

---

ビジネス学部なので、ビジネスに関する本を読んで紹介したいなと思い選書しました。「経済学」は一見堅苦しい言葉に聞こえがちですが、そんな経済学をみんな大好きディズニーを使って解説していく本になっています。この本のおかげで経済学の理解がより深まりました。ディズニーが好きな人なら誰でも読みやすいと思います。

【ビジネス |\_まるちゃん】

# まほろ駅前多田便利軒

著：三浦しをん

---

便利屋を営む主人公多田の元に高校時代の同級生である行天が転がり込んでくるところから物語は始まります。多田はいつも通りに便利屋の仕事をしようとするのですが、なぜか行天がいることで厄介ごと巻き込まれていきます。正反対でありながらどこか似ている二人の軽快なやり取りが面白いです。その二人の周りも個性的な人物ばかりで作品の面白さに拍車をかけていると思います。コメディあり、シリアスありで進んでいき心温まる読後感が得られる作品なため、おすすめです。

【文科1\_あやか】

# ルパンの告白

著：モーリス・ルブラン

---

短編集で、シリーズの作品を全く読んでなくても普通に読めます。怪盗ではなく、探偵的なことをしています。ただ、個人的に翻訳が堅くて少し読みづらかったなと思いました。物語は僕とルパンが会話をするという構成ですが、この僕が作者であるルブランだと言われています。作者と作者の作った人物が語るという不思議な感じでした。ルパンのいい男っぷりがとてもよく分かりました。

【文芸2\_そえじ】

# 新・大学で何を学ぶか

著:上田紀行

---

私の選んだ本は「新・大学で何を学ぶか」です。この本は進路についての授業を受けた後に見つけた本で、自分が何を大学でしたら良いのだろうか、という方にヒント本としてお勧めです。まず、大学にきたことについて考え直す、という本です。十三人の教授の方がそれぞれ大学について様々な専門分野から語っていて、読みやすく書いてあるので、さらっと読めます。

【文科 1\_ほーちゃん】

# 謎解き!宮崎・ジブリアニメ

著:佐々木隆

---

ジブリアニメの背景についておおまかなストーリー付きで考察していくのでアニメを見ていない人でもわかりやすく、既に見た人でも新たな発見や興味を持つことができもう一度見返したくなるような気持ちになれると思います。

【文芸2\_ゆうか】